会　議　録

１会議名	第１回　南砺市社会教育委員会
２議題	・委嘱状交付 ・委員長・副委員長の互選について ・報告事項 （１）南砺市教育委員会の組織及び主な業務について （２）平成 29 年度南砺市教育委員会重点施策について （３）平成 29 年度教育委員会当初予算概要について （４）生涯学習（前期）事業について （５）スポーツ関係事業について （６）社会教育・体育施設関係について 当面の主な行事予定について
３開催日時	平成 29 年６月 22 日（木）午後１時 55 分から午後３時 27 分
４開催場所	南砺市役所井波庁舎　３階　３０１会議室
５会議出席者	南砺市社会教育委員　出席 11 人/全 14 人 委　員：梅原雅美、武田和一、金子良成、小原勉、北川智之、宮川義文、溝口秀勝、山田政寛、橋本正俊、城寶マチエ、牧信二 事務局：教育長、教育部長、生涯学習スポーツ課長、こども課長、教育総務課長、生涯学習係長、スポーツ係長、生涯学習係主事
６欠席者	委員：唐嶋田鶴子、渡邊一美、坂本博昭
７傍聴者	無し
８議事内容	・開会　佐々木生涯学習スポーツ課長 ・委嘱状交付　あらかじめ配布してある委嘱状をもって交付 ・開会あいさつ　高田教育長 ・委員長・副委員長の互選について 山田委員の推薦により委員長に武田和一氏、 武田委員長の推薦により副委員長に梅原雅美氏を選任 ・委員長あいさつ　武田委員長 ・自己紹介　社会教育委員、事務局の自己紹介 ・進行　武田委員長 ・報告事項 （１）南砺市教育委員会の組織及び主な業務について説明 事務局：（資料１に沿って説明） （２）平成 29 年度南砺市教育委員会重点施策について説明 事務局：（資料２に沿って説明）

	（３）平成 29 年度教育委員会当初予算概要について 事務局：（資料３に沿って説明） （４）生涯学習（前期）事業について 事務局：（資料４に沿って説明） （５）スポーツ関係事業について 事務局：（資料５に沿って説明） （６）社会教育・体育施設関係について 事務局：（資料６に沿って説明） ●質疑応答 委員：中学校教育振興費にある英語検定の３級取得希望者に検定料の２分の１を負担する事業について、対象は受検者全員なのか、３級合格者のみが対象なのか。また、検定を何回も受ける人がいる場合の助成はどうなるのか。 事務局：英語検定の３級以上を受検し、合否に関わらず希望した全員が助成対象となる。助成限度は年１回としているが、毎年の受検に対する助成は行う。 委員：中学１年生から３年生までの約何割が英語検定を受検しているのか。また、助成はいつから行っているのか。助成による効果として合格率は上がっているのか。 事務局：昨年度から実施している事業である。昨年度のデータを基に、合格率の比較などについては、今後資料を作成したい。 委員：近年、英語検定以外にＴＯＥＩＣなどもあるが、助成を英語検定のみにした理由は何か。 事務局：中学生が主に受検するのは英語検定であり、ＴＯＥＩＣ等の受検は高校生以上になってくる。現在、高校受験で求められるのは英語検定が主流で、英語検定を対象としている。 委員：中学の段階で３級合格者や２級合格者が何名いるのか、楽しみで

	ある。その実績が受検者の励みになり、受検の促進につながるのではないか。とても良いことだと思う。 委員：公民館指導員、公民館長の報酬をもう少し引き上げられないか。公民館長の報酬は年間５万円だが、以前から少ないのではないかという意見が出ている。地域の振興など色々携わっているわりには少なくないか。 事務局：公民館指導員、公民館長の報酬を引き上げる場合、社会教育指導員等、他の報酬にも関連し一律に引き上げなければならない。今後、協議が必要な事項である。 委員：イクメン応援事業はいつから行われているのか。 事務局：県の補助事業で平成 25 年度から３年間行われていたものを市で引き継ぎ、昨年から総合戦略の事業として行っている。子育て支援センターで年４回、子育てに関する講座を開催しており、子育てしやすい環境づくりを民間企業にも働きかけていく必要があると考えている。 委員：親子わんぱく自然教室で保護者の参加状況を見ていると、これまで参加の９割が母親だったが、ここ数年、夫婦で参加される傾向があり、市の事業効果だと感じている。今後も是非続けていただきたい。 委員：一昨年あたりから教育・スポーツに関連する公共施設の見直しで住民説明会などが開催されている。その進捗状況を市民がホームページなどで見ることは可能か。 事務局：市では公共施設の再編計画を進めており、平成 30 年度までの５カ年計画が進行中である。再編計画に関しては公表しているが、現在の進捗状況を公表していない。今後どのような方向で進めるのかも含め、調査し、報告や公表できるようにしたい。 委員：スポーツ推進委員は具体的にどのような意義でどんな活動をしているのか、よくわからない。委員として新しく学んだことを地域に活かす・広める活動をしてほしい。そのことで初めて、委員の指導効果が現れるのではないか。

事務局：スポーツ推進委員については、委員対象の新しいスポーツ講習などの研修会を行っており、地域に戻って、スポーツクラブと共同で各種教室指導、地域運動会の企画・運営などに携わる活動をしている。また、市のスポーツイベント等においても協力している。年１回の推進委員全体会で活動報告を行っているが、各地域でどのような活動に携わり、どのような成果につながったかの詳細までは把握できていないのが現状である。地域から委員に対し「こういった活動がしたい」など働きかけていただければと考えている。

委員：地域の人はスポーツ推進委員がどんな活動をしているかわからないし、委員が誰かということもわかっていない。地域から委員への働きかけを待っているだけでなく、委員自らも情報発信や活動をしてもらいたい。

事務局：スポーツ推進委員には、積極的に地域で活動していただくようお願いする。

委員：出生祝い金について、「三世帯以上が同居する世帯に祝い金を加算し支援する」とあるが、祝い金は三世帯同居でなくても支給されるのか。

事務局：三世帯同居でなくても支給される。また、三世代同居に該当する場合は、更に祝い金が加算されることになる。第１子の場合は、昔行っていたチャイルドシート助成分の５千円を合わせて３万５千円、三世帯同居は更に３万円を加算した６万５千円を支給している。この事業については、第２子の壁を打破したいとの考えから第２子以降の加算を大きく設定している。

・その他

当面の主な行事予定について

事務局：（資料７に沿って説明）

・閉会のあいさつ　梅原副委員長